

## 平成29年度 沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

### 1 趣 旨

- (1) 本県児童生徒一人一人の当該学年における一年間の学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。
- (2) 各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、年度初めに前学年の学習内容の習得状況を揃えるために実施する。

### 2 実施期日・対象学年・教科

(1) 小学校：平成30年2月21日(水)

対象学年	教科	対象学年	教科
第3学年	国語、算数	第5学年	国語、算数、理科
第4学年	算数	第6学年	算数

(2) 中学校：平成30年2月22日(木)、23日(金)

対象学年	教科
第1学年	数学
第2学年	国語、社会、数学、理科、英語

### 3 教科の調査結果(平成30年3月9日最終)

(1) 小学校

対象学年	教科	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	正答率 30%未満
第3学年	国語	15,720	70.4%	25.0%	4.5%	3.2%
	算数	15,805	80.2%	18.7%	1.1%	0.9%
第4学年	算数	15,508	59.0%	37.4%	3.6%	9.7%
第5学年	国語	15,199	66.7%	30.5%	2.9%	4.2%
	算数	15,233	55.1%	38.5%	6.4%	17.5%
	理科	15,231	55.6%	42.4%	2.0%	9.3%
第6学年	算数	14,786	65.7%	31.1%	3.2%	7.6%

(2) 中学校

対象学年	教科	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	正答率 30%未満
第1学年	数学	14,300	40.8%	49.9%	9.3%	35.1%
第2学年	国語	14,205	60.4%	35.8%	3.7%	3.9%
	社会	14,145	46.4%	47.5%	6.1%	24.2%
	数学	14,074	45.4%	44.5%	10.1%	32.8%
	理科	14,196	37.4%	51.3%	11.3%	43.5%
	英語	14,172	54.1%	41.4%	4.4%	17.4%

### 4 結果の概要(正答率30%未満の児童生徒の視点から)

#### 小学校

国語において、正答率30%未満の児童の割合が3学年で3.2%、5学年で4.2%であり、平均正答率も3学年で70.4%、5学年で66.7%であることから、概ね学習の到達状況は良好である。しかし、文章を読み取る際に、接続語を使ったり、文章構成を捉える活動を取り入れながら書くことの指導を工夫する必要がある。

算数においては、学年が上がるにつれて、正答率30%未満の児童が多くなる傾向がある。特に4学年・5学年においては顕著で、既習事項の定着に課題があると考えられる。そのため、児童のつまづきを把握し、習熟を図る授業の工夫が必要である。

#### 中学校

正答率30%未満の生徒の割合は中2国語(3.9%)で最も低くなっている。しかし、他の教科では10%を越え、中1数学(35.1%)、中2数学(32.8%)、中2理科(43.5%)で特に高くなっている。学習内容が高度になることや定着のための時間が足りないことも原因として考えられる。既習事項を活用しながら、授業の中で習熟度を高める指導の工夫が必要である。

### 5 課題への対策

当該学年で学習した内容が、児童生徒一人一人に身についたかを確認し、必要な支援を行うとともに、授業改善につなげる。

#### 【各学校】

- (1) Webシステムを活用し、自校の実態把握を行い、正答率30%未満の児童生徒への支援を行う。
- (2) 課題のある設問については次年度の指導計画に重点事項として明記し授業に反映させる。
- (3) 各学校においても結果分析を行い、課題のある設問に焦点化した授業改善につなげる。

#### 【県教育委員会】

- (1) Webシステムを活用し県全体の実態把握を行い、各学年・各教科毎に結果分析を作成し周知する。
- (2) 学校支援訪問で、到達度調査の結果についても触れ、組織的な学力向上の状況について助言を行う。
- (3) 全国学力・学習状況調査の分析を通して、県としての課題を把握し、到達度調査の作問に反映させ、授業改善の充実を図る。

## 6 各学年・各教科ごとの状況

### (1) 小3〈国語〉

説明文の構造を理解し分析的に読む問題の無解答率が最も高く、解答した児童でも70%近くが誤答となっている。説明文の「問い」について意識できていれば、解答はそれほど難しくないと考える。そのため説明文には「問い」と「答え」があり、それを支える事例があるという構造を理解し、全文をまるごと捉え、誰が(筆者が)何のために(目的)書いた文章かを意識させる指導が必要である。

### (2) 小3〈算数〉

時間の倍について計算することに課題がある。問題文を読み、「自転車と徒歩とどちらが早いか」「歩くことと比べるとどれくらい速いか」を予想させるような指導が必要である。また、計算の方法について「図で表す」「式で表す」「言葉で表す」見通しを持たせる指導も必要である。日常の授業でつねにこうした「予想」や「見通し」を意識して指導することが大切である。

### (3) 小4〈算数〉

過去の類似問題の正答率を見ると、児童の処理技能は向上していると思われたが、図形の辺の長さの提示を少なくすると、正答率が大幅に下がった。L字等の図形を長方形に分割することまではできるが、切り取った長方形の辺の長さを捉えることに課題があると考えられる。

「図形の構成要素に着目して、その相互の関係を考察すること」は、新学習指導要領で示される「数学的な見方・考え方」そのものである。それを、学習過程の中で働かせているかが、今後の授業改善のポイントになる。

### (4) 小5〈国語〉

中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えて読むことができるかどうかを問う設問において、指示する語句の理解に課題がある。指示する語句を適切に使うことで、文や文章をより簡潔に表現したり、文と文の内容のつながりなどを明瞭に表したりすることができることを理解できるよう指導する必要がある。指導の際には、指示する語句が「何を指し示しているか」を、文脈を読み取りながら確認する場面を設定したい。また、指示する語をつかうことで同じ文や文章を繰り返さずに済み、自分の考えを的確に伝えることができることを推敲の指導と関連づけながら、様々な機会をとらえて、継続的に指導したい。

### (5) 小5〈算数〉

概数について理解し、四捨五入で目的に応じて数を処理できるかをみる設問において、その範囲を正しく表すことに課題がある。2つの問題から、ある数の概数になるかを調べるための技能はあるが、正確に理解していないため完答に至らず、その結果、概数の知識を問う問題にも対応できないことがわかる。概数を正確に処理するための必要なキーワードは「四捨五入」「以上」「以下」「未満」の4用語である。この用語を確実に理解させるとともに、その範囲の概数処理にとどまらず、前後の規則性も捉えさせながら指導を行うことが大切である。

### (6) 小5〈理科〉

事象を関連づけて、論理的に考えることに課題がある。授業を進める上で、生活経験や前時の内容を想起させることで次の展開へとつなげるところで、対話的な活動を意識して取り入れて丁寧に授業計画・実施を行う必要がある。

(4)の「水が氷になると体積が増える」を正答率が高い。しかし、無答率が高いことから、生活の中で、「なぜ」と聞かれたときにうまく説明できない児童が多いことが分かる。これからの授業の展開として自分の考えを根拠を持って伝える対話的な授業展開を意識して行う必要がある。

### (7) 小6〈算数〉

全体的に正答率が向上しており、過去の全国学力・学習状況調査や到達度調査の類似問題と比較して改善が進んでいることがわかる。特に、式や図を解釈し判断する能力について正答率が向上している。しかし、資料のある部分に着目して、根拠をもとに説明する問題に関して、2割近い児童が無解答としているところに課題が見られる。

(8) 中1 <数学>

1学年では、2つの図形(正三角形)の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表見を用いて説明することに課題がある。指導に当たっては、2つの図形(正三角形)はどのような回転移動によって重なるかを捉える場面を設定し、回転の中心の位置、回転の方向、回転角の大きさについて明確にし、数学的に表現できるようにする必要がある。

(9) 中2 <国語>

漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くことに課題がある。生徒が楷書と行書を比較して、①点画の連続②点画の省略③筆順の変化④点画の方向や形の変化の4つの特徴を見つけたり、行書を速く整えて書くために、滑らかな筆使いを意識して書き、生徒が互いに書いたものについて評価し合う場面を設けるなど、書写指導の工夫が求められる。

(10) 中2 <数学>

2学年では、一次関数について、表、式、グラフを相互に関連づけて理解することに課題がある。一次関数の表、式、グラフの相互関係から一次関数の特徴を気づかせたり、問題解決に利用して説明したりするなど、指導の工夫が必要である。証明を書く指導、証明の必要性和意味及び方法、証明を読んで新たな性質を見いだすことを大切に指導することが必要である。

(11) 中2 <理科>

問題中に示されたいくつかの実験結果を比較して答えを導いたり、文章で説明したりすることに課題がある。また、グラフの読み取りや、数値を計算して抵抗や密度を求める問題にも課題が見られた。

授業において実験結果を表やグラフにまとめ、それを根拠に考察などを記述させたり、実験結果から得られる測定値をもとにして抵抗や密度を計算して求めたりするなど指導の工夫が必要である。

(12) 中2 <社会>

「領事裁判権」について、指定された語句や文字数などの条件に従って説明する設問の正答率が高かった。これまで、同様の設問の正答率は低い状況が続いていたが、今年度は、他の同様の設問においても、正答率及び無解答率において改善が見られた。しかし、各分野の基本的な知識の習得に課題が見られる。引き続き、思考・判断・表現する学習の充実を通して、基本的な知識・技能の定着を図っていく必要がある。

(13) 中2 <英語>

本年度から英語スピーキング力調査を、到達度調査の一部として実施した。問題の内容は、イラストを見ながら、英語の質問に答える問題とイラストに関連した質問に自分自身の立場で答える問題の2問である。正答率は、77.6%と72.2%と高く、何も言わずにいた生徒は3.5%と3.8%であった。教師が生徒に英語を話させることを促し、励ましていることが高い正答率から分かる。

今後も、学校でのパフォーマンス評価(話すこと、書くこと)の実施の継続で、英語力向上を図っていく。